

# 校長通信 (第1号)

令和6年4月10日  
東京都立田無高等学校  
校長 長嶋 浩一

## 1 ごあいさつ

東京都立板橋有徳高等学校より転入した、校長の長嶋浩一です。都立高等学校の校長としては4校目で、今年で校長職10年目になります。私自身としては、本校の所在地である西東京市には特にご縁があり、中学校や高等学校の管理職として3校目の勤務になります。再び帰ってきた「心の故郷」で全力を尽くしていきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。



## 2 令和6年度第1学期始業式校長講話 (要旨)

- 生徒の皆さんと共に「明日が待たれる」「入ってよかったと思える」最高の学校をつくっていききたい。
- 最高の学校とは、様々な出会い、経験を通して皆さんを成長させてくれる学校であると思う。
- 生徒の皆さんには、次の二点を意識した学校生活を送ってもらいたい。

### 1 チャレンジ (挑戦) : 何事にも果敢にチャレンジしてほしい。

※偉人たちの名言を紹介

- (1) スコットランド出身の科学者で、電話の発明で知られる発明家のアレクサンダー・グラハム・ベル  
『扉が閉じたら、もうひとつの扉が開く。だが、閉じられた扉をいつまでも悔しそうにじっと見つめていては、別の扉が開いたことに気づかない。』

どんなことにも通じる素敵な言葉で、心の背中を押してくれる言葉である。何かに躓いた時には別の扉に目を向けることが大切だ。

- (2) ドイツ生まれの物理学者のアルベルト・アインシュタイン

一般相対性理論、特殊相対性理論を唱え、1921年にノーベル賞を受賞。世界で最も影響力のある人物として知られるようになった。

『失敗したことがない人間というのは、何も新しいことに挑戦したことがない人間である。』

新しいこと、やったことがないことに挑戦したとき、上手くないことが多いが、失敗や挫折を経験することで、そこから学ぶことはたくさんある。それが人としての成長に繋がる。

- (3) アメリカ第16代大統領、エイブラハム・リンカーン

『君が躓いてしまったことに興味はない。そこから立ち上がることに関心があるのだ』

誰にでも「躓き」、つまり「失敗」や「挫折」がある。しかし、リンカーンは躓いたことには興味がなく、そこからどう立ち直るのが大切であると言っている。

### 2 夢・希望・人との出会い : 前向きな姿勢をもち、人との出会いを大切にしてほしい。

『努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。』

井上靖 (日本の小説家)

1907年 (明治40年) 5月6日 - 1991年 (平成3年) 1月29日 『闘牛』で芥川賞受賞

主な著書に『猟銃』『氷壁』『天平の薨』『しろばんば』『敦煌』『楼蘭』等

5年間新聞記者として働きながら小説家になっていった。新聞社に勤めていた彼が多くの賞を受賞した背景には、多くの努力があった。戦後期を代表とする小説家の一人で、恋愛・社会小説、歴史小説や自伝的小説など、あらゆるジャンルの小説を書いた。また、海外旅行が一般的でなかった時代に欧米からアジア、中東など多くの地を旅して、それを基に紀行文や美術評論を書いた。

その時の彼の多くの作品は海外で翻訳され、国際的にも高く評価されている。1976年には文化勲章も受賞し、文化人として国内外で活躍した。

人はついつい物事の不満にばかり目を奪われ、楽な方へ楽な方へと怠けてしまいがちである。しかし、努力している人が輝いて見えたという経験はないだろうか。きっとその輝きは、不満に目を向けているのではなく、希望を持って前へ前へと一生懸命、物事に取り組んでいる姿勢から生まれているのだと思われる。勉強、部活動、趣味。何事に対しても不満ではなく、希望に意識を向ければ、きっといい方向に進んでいくはずである。つまり、私たちに必要なのは、「希望に目を向ける」という意識なのである。

もし、その人が希望を語っているのなら「前向きに努力している人」である証だ。今の自分はどちらを口にしているのか、自分自身に問うてみよう。

※その他の井上靖の名言

『何でもいいから夢中になるのが、どうも、人間の生き方の中で一番いいようだ。』

『自分が歩んできた過去を振り返ってみると、何となくさんのすばらしい一生に一度の出会いがあることか。』

『若い人たちはもっと積極的に一期一会の精神を、日々の生活の中に生かすべきである。』

### 3 第42回入学式 校長式辞

式辞に先立ち、令和6年能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに被災地の1日も早い復興を祈念いたします。

近年東京では、桜の開花の時期が早まってきており、今年は7年ぶりに満開の桜のもとで入学式を迎えることになりました。本日多くの御来賓の皆様、保護者の皆様に御臨席いただき、令和6年度東京都立田無高等学校第42回入学式を挙げていただけますことは、誠に大きな喜びでございます。御臨席の皆様方に心より御礼申し上げます。

只今、呼名のありました318名の入学を許可いたしました。新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんは厳しい入学者選抜を見事突破し、本校への入学を果たしました。今までの努力を称え、心から入学を歓迎いたします。

本校は、「田無市に都立高校を開設してほしい」という当時の田無市民の熱い思いを受け、昭和58年4月7日に第1期生を迎え、令和4年度に創立40周年を迎えました。そして、現在12,000人を超える卒業生が、社会の各分野で活躍しています。

本校の教育目標には、叡智、敬愛、剛健、自律の4点が挙げられています。

叡智とは、知性と創造力、敬愛とは、互い的人格尊重、思いやりと協力の精神、剛健とは、鍛え抜かれた身体と豊かな情操、自律とは、自らの正しい判断及び勇気と責任ある行動を指しています。

本校では、「高度な情報を管理する能力や自他を尊重し、社会に貢献しようとする意欲を有する人間」、「常に変化し続ける社会における様々な状況の中で、的確に状況を判断し、未来を切り拓く能力を身に付け、グローバルな社会で活躍できる人間」の育成を目指しています。

そのために、生徒一人一人のよさを認め、個性や能力を最大限に伸ばすこと、知識基盤社会を生きる学力を育成するとともに、学校行事や部活動等の諸活動を通して、「知」「徳」「体」の調和のとれた生きる基盤を培うこと、個に応じた指導により、変化の激しい社会を生き抜く思考力・判断力・表現力や創造力等を育てること、学校行事や部活動及び「人間と社会」などを通して、社会の一員としての自覚と行動力、社会の発展に貢献しようとする意欲を高めること、開かれた学校として、学校、家庭、地域・社会が一体となり、ともに生徒を育てていくことを意識した教育活動を展開しています。

皆さんには次の3点を意識して高校生活を送ってほしいと思います。

第一に、「**良き習慣を身に付ける**」ということです。習慣は第二の天性ともいわれており、人生を左右することさえあります。社会生活の基本となる、良き習慣の一つとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」ということがあります。時を守るとは、遅刻をしない、学習時間を確保するなど。場を清めるとは、きちんと掃除をする、整理整頓をするなど。礼を正すとは、服装をきちんとする、挨拶をするなどです。「時を守り、場を清め、礼を正す」という社会生活の基本がきちんと出来て、良き習慣となるように日々努力して行ってください。

第二に、「**思いやりの心をもつ**」ということです。他人を思いやることは、自分を見つめ直すことにも繋がります。思いやりの心をもつことで、お互いに助け合う友達の輪ができます。そして思いやりの心は行動のエネルギーにもなります。本校で思いやる・思われる、何でも話し合える、そんな友達を見つけてください。高校時代の友達は、掛け替えのない一生の宝となります。

第三に、「**何事にも積極的にチャレンジする**」ということです。具体的には、学習・部活動・委員会活動等に積極的に参加することです。世の中には困難なこともたくさんあります。うまくいくこともそうでないこともあるでしょう。大切なのは、結果だけではなく、そこに至るまでのプロセスです。成功すれば、それは達成感や自信につながるでしょう。成功からだけでなく、失敗から学ぶこともたくさんあります。悔しい思いをし、二度とそのような思いをしないよう、考え、工夫し、改善を図っていく。まさにその過程こそが、将来皆さんが社会の中で生きていくのに必要な「**不撓不屈**（ふとうふくつ：どんな困難にあっても決して心がくじけないこと）」の精神を身に付けることに繋がるのです。

保護者の皆様にお願いがございませう。

本日から、保護者の皆様と我々教職員は協働してお子様の教育に携わることになります。そのためには保護者の皆様と我々教職員との信頼関係を基盤とした連携が不可欠です。本校の教育方針についての御理解と御協力をお願いいたします。何かお気付きのことや心配事がございましたら、学校に御連絡をいただければ幸いです。

また、具体的に1点、お願いしたいことがございませう。それは、学校での出来事や連絡事項、将来の夢、スポーツ、文化、政治、世界情勢、趣味等、どんなことでも結構ですので、できるだけ多くお子様と対話する時間を作っていただくということです。その際には、指示や注意をするだけでなく、大人になりつつある子供の気持ちや考えを受け止め、話し合うことに重点を置いた御対応をお願い申し上げます。

結びに、新入生の皆さんの充実した高校生活を願ひ、式辞といたします。

令和6年4月9日

東京都立田無高等学校長 長嶋 浩一